

東京工業大学大学院 永井 護

池田 英治

日建設計 K.K 佐藤 源治

1. はじめに

余暇活動分類別需要予測の示す通り、行動圏別の余暇時間を比較すると日常生活圏における余暇時間が将来(5, 60)とも全余暇時間の9割程度を占めることとなる。したがって今後の余暇対策としては、現在最もたちおくれている日常生活圏の余暇環境の整備が緊急の課題である。また、現在各地で問題になり始めている観光公害、観光開発による自然破壊も日常生活圏におけるレクリエーション環境の不備が大きな原因として上げられる。このような意味からも日常生活圏の余暇環境に改めためて着目する必要があると考えられる。

2. 余暇環境からみた日常生活圏のまとめ

生活圏は空間的な広がりとしてとらえることもできるが、本研究では人口の規模としてとらえることとする。余暇環境の観点からは生活圏を余暇行動の自由度(余暇活動の選択の自由度)を指標としてとらえることができる。つまり幾つの活動の選択が可能であるかにより、生活圏を設定することかできると考えられる。そしてその自由度はまず人口の規模の函数と考えられる。

また、図-1からもわかるように今後時間消費型の余暇活動の普及が必須であり、そのためにはクラブ、サークル、学校などの余暇集団の成立が前提となり、活動の自由度は選択できる余暇集団の種類に依存すると考えられる。したがって本研究では余暇集団の成立と地域特性との関係を分析することにより日常生活圏のまとめを議論することとする。

3. 余暇集団の形態

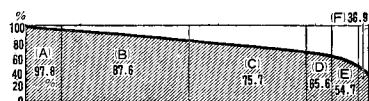
余暇集団は表-1に示すような視点で分類することができるが、本研究では集団への参加率、集団の数、活動の種類、集団のサイズを地域ごとに測定し、それを地域特性で説明することとする。

4. 余暇集団と地域特性

日常生活圏の余暇活動の形態は家庭での余暇活動、コミュニティでの余暇活動、都市的な余暇活動に分類されさらに次の5つのタイプに分けられる。(図-2 参照)

- 1) 家庭での余暇活動。
読書、新聞、盆栽など。

図-1 余暇活動の達成率



【注】(A) グループ＝新聞を読む、外食・ショッピングをするなど。
(B) グループ＝ボウリング、ドライブ、読書、一泊以上の国内旅行、ゴルフ、キャンプ、映画・観劇など。
(C) グループ＝釣りや狩猟、スポーツ、日曜大工、宗教活動、お茶・お花、園芸、マージャンなど。
(D) グループ＝ゴルフ、乗馬、釣、絵画・書道、資格をとるための勉強など。
(E) グループ＝社会奉仕活動、切手・コインなどの収集など。
(F) グループ＝海外旅行。

(国民生活白書47年版から)

表-1 余暇集団の分類

a. 活動の種類

- 1) アウトドアレクリエーション
- 2) スポーツ
- 3) インドアレクリエーション
- 4) 文化活動
- 5) 教育活動
- 6) 奉仕活動

b. 上位集団

- 1) 学校・企業
- 2) 公共団体(市町村)
- 3) レジャー産業
- 4) 民間団体(有志・クリエーション団体)

c. メンバーの構成

- 1) 性別
- 2) 年齢
- 3) 職業

d. 集団の機能

- 1) 施設の有効利用
- 2) 経営の合理化
- 3) 親
- 4) 情報の交換
- 5) 技能の修得

2) コミュニティでの個人活動

散歩など各人がコミュニティ内で行なう活動

3) コミュニティでの集団活動

町内会の余暇活動、農協の青年会の余暇活動など

4) 都市的な個人活動

映画、ショッピングなど盛り場での諸活動

5) 都市的な集団活動

企業内のクラブ、大学のクラブなど

ここで2)と3)あるいは4)と5)の比率はその地域の親密さあるいはまとまりといったものに左右され、家庭での余暇活動、コミュニティでの余暇活動、都市的な余暇活動の割合はその地域の都市化の度合に依存すると考えられる。このような考え方にともずき余暇集団と地域特性を図-3に示すような指標でとらえることとする。

5. 調査

1) 調査対象

市町村の行政単位で対象地域を設定し、年令による層別のランダムサンプリングで調査対象の個人を選定する。

2) 調査方法

往復はがきによる。

3) 質問事項

表-2参照

6. 分析

1) 集団への参加率を地域特性により説明する。

2) 集団の出現回数により活動を分類する。

3) 活動ごとの集団のサイズの分布型の設定。

以上のアウトプットを基に余暇環境からみた日常生活圏のまとまりの目安を設定する。なお、結果は当日発表する。

7. 問題点の整理

都市化地域におけるコミュニティの余暇活動の可能性、また農山村の都市的余暇活動の提供の可能性が、具体的には、日常生活圏のまとまりを決定すると考えられる。しかしながらこの二つの問題は共に組織作り、リーダーの負などフィジカルな指標としてとらえられない面を多くふくんでいる。このように組織、人間関係の情報をフィジカルな地域計画に相応する事が今後必要となろう。

参考文献

講座社会学 4 家族・村落・都市
集団の心理学

福武 直 他
広田 君美

東大出版会
誠信書房

図-2 日常生活圏の余暇活動

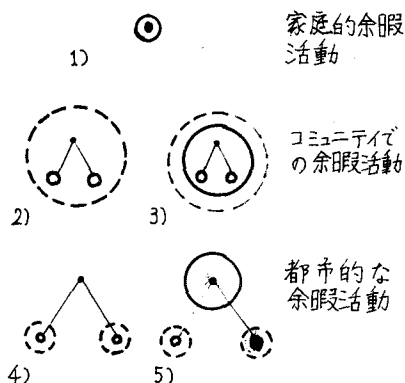


図-3 余暇集団と地域特性

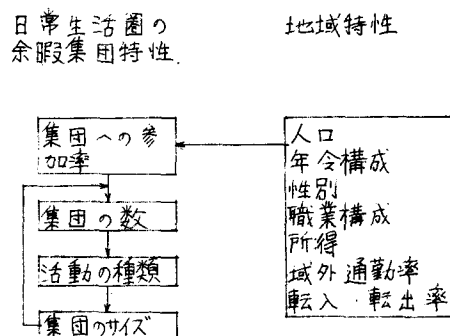


表-2 質問事項

- ・ 余暇集団への所属の有無
- ・ その集団の活動の種類
- ・ その集団の所属している機関
- ・ その集団の人数
- ・ 活動の回数
- ・ 集団内の友人の人数
- ・ 集団の所在地
- ・ フェイスシート